

## 「社会とのつながりを意識できる子を育てる社会科学習」を目指して

姫路市立英賀保小学校  
主幹教諭 曾谷 剛史

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 研究について

本校が平成28年度中西播地区小学校社会科教育研究大会を開催するにあたり、「児童が主体的に取り組む社会科学習」、「教師が自信をもって指導できる社会科学習」、つまり、「児童も教師も楽しい社会科学習」を目指した。その上で、『自分と社会とのつながりを意識できる児童は、社会的事象に対して高い関心をもち、自分ごととして思考・判断・表現し、社会のしくみについて理解を深め、社会の一員としての自覚と愛情をもつことができる』と考え、研究テーマ「社会とのつながりを意識できる子を育てる社会科学習の創造」を設定し、研究を進めた。

#### (2) 研究仮説と研究の視点

##### <研究仮説>

- ・学習内容の分析を進めて目標を明確化し、**関心・意欲を引き出す教材の開発**をすすめることにより、児童は主体的に学習にとりくむことができるであろう。
- ・**既習内容の活用や新たな問いへの発展を意識した学習計画を設定**することにより、児童の思考が深まるとともに、社会とのつながりの意識も高まっていくであろう。
- ・学習過程の中に**少人数での作業や話し合いなどの活動**を意図的に取り入れることにより、児童は自分の考えを表現し、互いの学びを深めていくことができるであろう。

上記の研究仮説に基づき、次の3つの研究の視点を設定した。

○児童が意欲的に追究していこうと考える教材の開発

○学習してきた内容を活用し、自分ごととして思考を深めていくことができる学習計画の設定

○児童が協働的に学習をすすめていくことができる場面の設定

#### (3) 研究の基礎

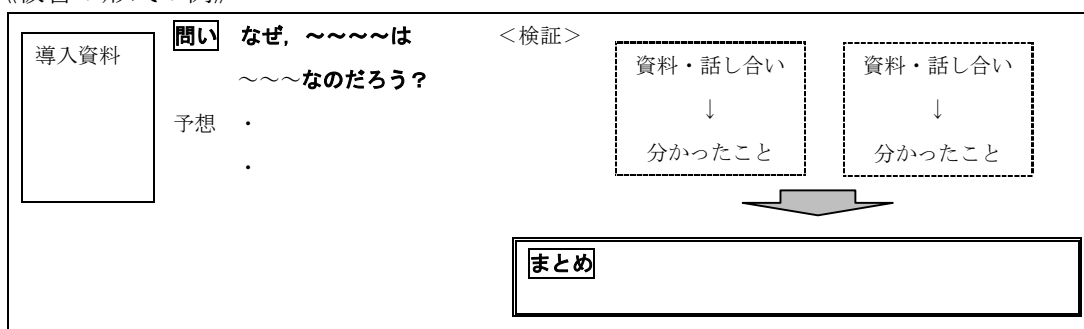
##### ①【学習指導要領解説の読み込み】

学習指導要領解説には目標だけでなく、学習すべき内容や方法なども書かれている。教科書もそれに基づいて作られている。だから学習指導要領解説を読み込んでいくことで、児童に何について、どのように学ばせ、どんなことを考えさせ、どんな認識をもてるようにしていく必要があるのかが明らかになる。つまり、学習指導要領解説を読み込むことで、単元の学習の流れが見えてくるのである。その流れを指導案の学習計画に構造図として整理してまとめ、授業改革につなげた。

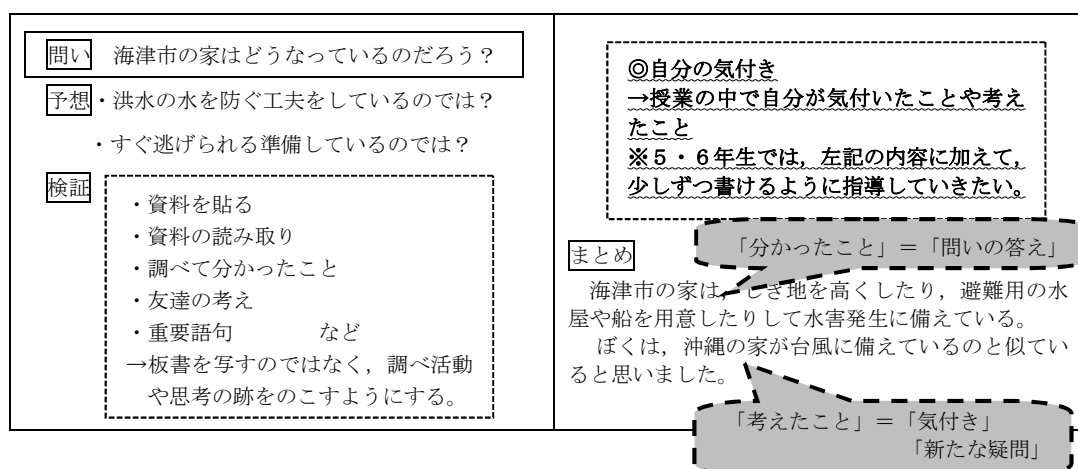
## ②【問題解決的な学習の展開】

社会科における「問題解決的な学習」は、児童が社会的事象に関する「驚き！」や「疑問？」を抱くことによって始まる。そして、それらに対する児童の予想・推論をまとめたものとして「単元を貫く問い（学習問題）」が設定できる。その後の追究過程では、「問い」と「追究」を繰り返していった最後に、児童は中心概念へと到達していく。この流れを意識しながら単元の学習を進めていくことで、児童を主体的・能動的な学びに導くことができる。さらにそれを支えるために、思考の流れが見える「板書」と「ノート作り」についても取組を進めた。

### 《板書の形式の例》



### 《ノートのまとめ方の例》



## 2 取組の成果

### (1) 【身近な給食からの導入】 5年「わたしたちの食生活と食料生産」

『月曜と火曜の給食には、どんな食材が使われているのだろう？』

月 曜：ごはん 牛乳  
すまし汁  
野菜のかきあげ

火 曜：パン りんごジャム 牛乳  
鶏肉のフォー  
ポテトサラダ

＜近くの子とも相談しながら、みんなで使われている食材を考えていった。＞

**月曜：【ごはん 牛乳 すまし汁 野菜のかきあげ】**

米 牛乳 とうふ わかめ シイタケ かまぼこ(魚) 青ネギ  
エビ にんじん 玉ねぎ ジャガイモ

**火曜：【パン りんごジャム 牛乳 鶏肉のフォー ポテトサラダ】**

パン(小麦) リンゴ 牛乳 フォー(米) 鶏肉 ニラ もやし レモン  
ジャガイモ 人参 ポークハム(豚) とうもろこし キャベツ

T：「みんなよく思い出したね。献立表で確かめても間違いないね。ところで『わかめ』『かまぼこ』『エビ』は仲間なんだけど、どんな仲間か分かる？」

C：「海からとれる。」「漁師さんが関係している。」

T：「そうだね。海などから魚や海藻などをとったりする仕事を『水産業』といいます。では、ほかの食材もグループに分けられるかな？やってみよう！！」

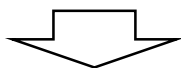
**<児童は自分たちでグループを考え、食材の仲間分けもどんどん発表していった。>**

<b>【海から】</b> グループ===== <b>水産業(青)</b> 『わかめ』『かまぼこ(魚)』『エビ』
<b>【動物関係】</b> グループ===== <b>ちく産業(赤)</b> 『牛乳』『ポークハム(ぶた)』『鶏肉(にわとり)』
<b>【畑から】</b> グループ===== <b>農業：野菜・果物(緑)</b> 『人参』『ジャガイモ』『とうもろこし』『キャベツ』『玉ねぎ』『青ネギ』 『シイタケ』『もやし』『ニラ』『とうふ(大豆)』『りんご』『レモン』
<b>【田んぼから】</b> グループ===== <b>農業：米(黄)</b> 『米』『フォー(米)』

T：「でも、農業や漁業で働く『生産者』が産地にいるだけでは、給食は作れないよ。」

C：「あっ、ここまで運んでくる人もいる！」

T：「そうだね。産地から私たちの所まで運んでくる働きのことを『運輸』といいます。」



**こうして、給食の食材について考えていく活動を通して、自分たちの食生活が、食料生産や運輸の仕事に関わる人たちによって支えられていることに気づくことができた。**

**<本時の「まとめ」>…児童のノートより**

◇私たちの給食は、水産業・ちく産業・農業の人たち、生産者がいて、それから運輸したもので作られている。いろいろな人が協力しているのですごいなと思った。

◇給食は、水産業、ちく産業、農業の人たちから運輸していき、私たちのもとに来ると分かった。私は、だから給食はいつも食べられるんだなと思いました。

## (2) 【海津市と既習の沖縄の比較】 5年「さまざまな土地のくらし」

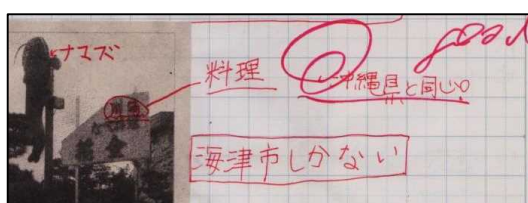
『海津市では、どのようにして水害にそなえ、どんな町づくりを進めているのだろうか？』

水防団の組織や水防倉庫の設置、水防訓練の実施など、水害に対する備えが今も続いていることを調べた児童に、「水害への備えが必要で大変なだけ？海津市には何か魅力はないの？」と問いかけ、観光パンフレットや写真資料から考えていった。

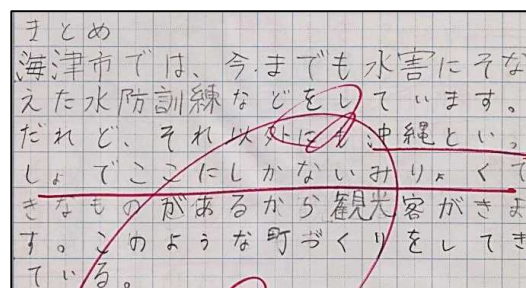
- ・木曾三川で釣り
- ・木曾三川公園で色々なイベント
- ・川からとれた魚や川エビの料理
- ・ボートやカヌー、ヨット
- ・展望タワーからの輪中や千本松原の景色
- ・水辺の生き物の観察

「海津市だから体験できることがある！だから観光の人がやってくるんだ。」

『海津市しかない』というのは、あたたかい気候や独自の文化があった沖縄と同じだ！」



【児童のノートより】



海津市にしかない魅力をたくさん発見した児童は、特色ある気候や文化を生かして観光の仕事を盛んにしていた沖縄県と結びつけて考えていた。このことを通して、それぞれの土地の人々が自然環境に適応し、その土地の良さを生かして暮らしを豊かにしようとしていることに気づくことができた。

### 3 課題及び今後の取組の方向

児童の中に、「問題解決的な学習」の流れが定着してきた。教える側から見ても、授業の初めに「問い」「めあて」を示して児童に学習の「見通し」をもたせ、最後に授業をふり返って学習の「まとめ」をさせる、『見通し・ふり返り学習』の実現にもつながっている。今後は、これらの流れを継続しつつ、新学習指導要領に示された新たな内容を意識し、下の学年から積み上げていくことが大切であると考えます。

また、一人ひとりの学びを深めていくためには、思考したり、表現したりするための基礎となる「知識の積み上げ」や互いの考えを分かりやすく伝え合うための「対話スキルの向上」が不可欠である。その実現のためにも、授業中の既習内容の振り返り、様々な形態での協働的な学習活動の設定など、日頃からの取り組みを丁寧に行っていく必要があると考えます。